

ふれあい

平成22年 4月 第289号

大代地区コミュニティ推進協議会
〈広報部〉
事務局：大代地区公民館
☎364-8442

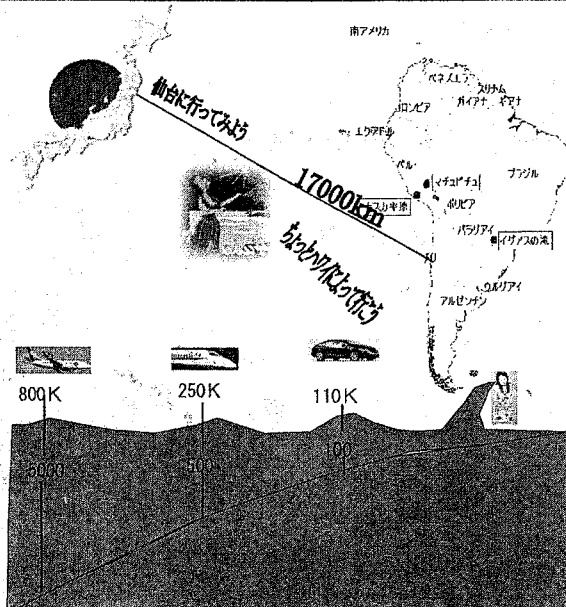
〈掲載目次〉

- 私たちの津波教室 1
- エイプリルフールは どうしてできたか 3
- 公民館まつりを終えて 2
- 大代の歩み(二十五) 4
- 多賀城市消防団第六分団だより 2
- ふれあい短歌(入学特集) 4
- 八十歳の私の道 3
- ふれあい俳句 4

私たちの津波教室

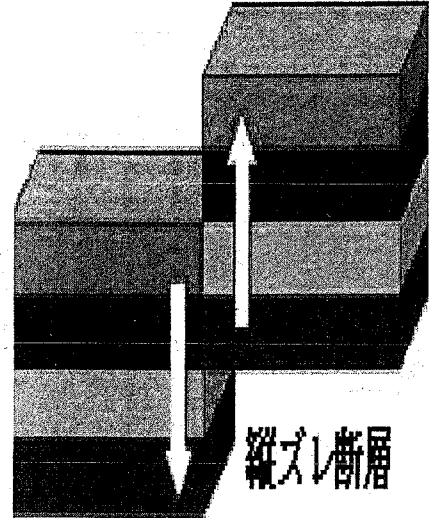
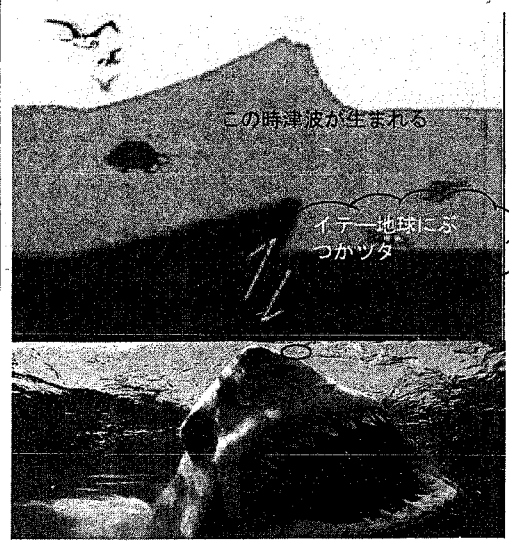
大代北区 加藤 渉

「津波」津波、日本語の発音がそのまま国際共通語になっている。津とは船着き場と訳されて浪が、波になって現在では、津波と記している事が多い。手取り早い解釈は、沖を航行する船舶などにさして影響は無く津(岸)で大きな影響をもたらす波、この解釈でどうだろう。日本とチリの距離はおよそ17000km政府発表によると、チリ沖で発生した津波は地震が起きてから丸一日程度で日本に到達するそうなので、距離を17000km、時間を24時間とすると、平均時速は17000/24=708.33約時速700km/hかなり早い。旅客機なみで押し寄せてくる。



津波は、深いほど早く伝わり、浅くなるにつれ速度が落ちる。その代わり高さが増してくる。右の図で解ってもらえるとありがたい。次に津波はどのようにして起きるのかに行ってみよう。津波は、海面が持ち上がる現象。何が、どのようにして持ち上げるのだろう。ちよっとしたマンガを書いてみよう。多分解ってもらえ

るだろう。



地球には幾つもの層があり、バームクーヘンのような層になっている。何かの拍子にずれてしまう。この時せりあがった地層が海水を押し上げる。ココで津波が誕生する。次の図は河北新報の切り抜きを貼ったものだ。三陸沿岸程高さが多い事に気が付く。この地域は海岸まで深いため、早い速度が保たれたまま接近し直角に近い角度で当たるから一気に高くなる。

チリ大地震による各地の津波の高さ(最大波)



津波の情報は、気象庁から発表され、大きく分けると、津波注意報、津波警報(避難準備態勢)その次が避難勧告、避難指示、津波警報、津波警報解除の順で終わる。地区の役員が区民を守ろうと、情報の収集や、避難者の誘導、要介護者の搬送に追われた一日だった。体験したことのない事なので、避難を即しても対応せず、役員だけの声掛けに終わったような気がしてならない。進んで対応し、自分がどの位みんなに心配をかけているのだろうかという気持ちを持ってもらいたい。

公民館まつりを終えて

平成二十一年大代地区公民館まつりが晴天に恵まれた三月十三日、十四日の二日間開催され、生涯学習課長さん、市議会議員さん、各教室及びサークルの講師の先生方を、お招きし、多くの利用団体

の方々の出席を得て盛大に開会セレモニーを開催することが出来ました。昨年は、耐震工事のため、作品展示のみでしたが、今年は「集い・学び・結び合い」を合い言葉に、作品展示十一団体と舞台発表が十四団体、総勢三百四名の方々の参加をいただき一年間の成果を発表する場となり盛会裡に終了することが出来ました。二日間大代地区の方を始め多くの方々に見学を頂きました。最後に、館長、職員、実行委員会の皆さんに対し、ご理解とご協力をいただき深く感謝と御礼を申し上げあいさつします。

多賀城市消防団 第六分団だより

分団長 伊藤 勲

ひと雨ごとに春本番の気候になり大代地域の皆様には、お変わり無くお過ごしのことと存じます。日頃消防分団活動に対し、御支援、御鞭撻を賜り誠にありがとうございます。

先日二月二十七日午後三時三十四分発生した南米チリ国での巨大地震による津波が1万7千km離れた我が国の沿岸にも押し寄せました。

二十八日午前九時三十三分、東北の太平洋側に大津波警報が発令され、当分団員も、交通防災課からの出動命令を待たずポンプ置場に住民への緊急避難広報等の準備をしております九時半より大代全区、

桜木東区等に八回に亘り津波来襲の予告、避難指示、避難場所(東小学校、小野屋ホテル、多賀城中学校)を広報、その間ポンプ置場前の貞山堀での潮位観測をし、十五分毎に当局の災対本部に無線で報告、分団観測地点の最大潮位変化は、午後四時頃の津波が一メートル十センチ差の潮位変化があり上潮、下潮共仙台港方面への流れが大きい状態でありました。当初恐れておりました大津波の発生も無く、皆安堵したところです。今回は、幸いにして被害もなく住民の方々も自主防災組織の役員と共に冷静に行動、避難されていたように見受けられました。これらを教訓に、いざれ発生すると言われている宮城県沖地震に対しても万全を期し、全住民一丸となって協力し被害の軽減を計らなければなりません。それから三月九日には、十八年間活躍使用した旧ポンプ自動車を返納、それに伴って市当局の御高配により新型消防ポンプ自動車を更新配備していただきました。同日、柏木神社において安全祈願のお祓いを受け、今後の安全運用をお誓いし地域の皆様からのご期待に添える様、当分団員十九名の日頃の訓練を励み、微力ではありますが、新型消防ポンプ自動車を存分に活用し二十二年度も活動してまいりますので、今後共ご協力、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。なお、長年消防団員として活躍頂きました班長、伊藤和光様、団員本郷久人様が本年三月末に

て退団されました。大変ご苦勞さまでした。今までのご苦勞に団員一同感謝申し上げます。今後は、これまでの経験を生かし、当分団に対してもご教示賜りたくお願い申し上げます。

全国統一防火標語

「消えるまで ゆっくり火の元

にらめっ子」

塩釜地区防火標語

「火災ゼロ 職場みんなの

「マニフェスト」

八十歳の私の道

大代南区 星 繁子

「冬来たりなば春遠からず」と訪れる春に望をかけ過ぎて来ましたが、三寒四温の節なのでしょいか、思う様な春はなかなかやって来ない様です。

今年の冬は寒暖の差が激しく満八十歳を迎えた老体には厳しいものがありました。そんな中、昨年の十月頃だったでしょうか、大代公民館において菊地市長さんと区民との質疑応答がありました。私も及ばずながら質問をさせていただきました。それが菊地市長さん御就任第一声が「このままでは多賀城も夕張のような財政再建団体になってしまいます」との御言葉でした。私はその時非常に驚き疑問を持ちました。それはかつて義父が町議を努めさせていただいた約四十年前位前の頃の多賀城は県内でも珍しい無借金自

治体だったと誇りを持って話していたからです。何故に？と、その点について菊地市長さんから御説明をいただき、市内の水害対策で水害時の排水ポンプの設置やその他の設備で予算が支出された事を知り納得いたしました。

かつて多賀城には大水害がありました。年号は忘れましたが、たしか八・五の大水害と命名され、NHKテレビの全国版で放映され国の激甚災害にも指定された程と記憶しております。その時の市内は砂押川などの決壊で氾濫した水は砂押川河川周辺は勿論のこと、町前や桜木までにも及び舟で救出された人もおりました。我が町大代も貞山運河の増水で雨水は排水されず道路は川の様に流木や下水道の吹き上げで汚物が流れ唯一頼りの公園もひざ上の深さで逃げ場を失った恐ろしい思いがあります。その時市長に御就任されたのが今は亡き鈴木市長さんでその第一声が「多賀城から水害を無くします」との御言葉でした。その公約を実現されたのだと思います。以後水害もなぐ暮らさせていただいておりますが、自然界の変化もあり全くの安全安心は出来ないと思っています。只、大きな予算を投入し設備したポンプ等の器具がこ一番という時に稼働しなくては意味がありません。平常の維持管理と操作技術の向上を切にお願い致します。

さかのぼって私は菊地市長さんの第一声を耳にした時は大変なショックで決し

て町を再建団体にはいけないと思いつた。戦後の混乱から試行錯誤の結果今の多賀城の基礎を築いた先人達のご苦勞と心意氣を忍び、その当時は米軍キャンプもあり他の自治体とは違った苦勞があったとうです。そこで今八十歳を迎える私に何が出来るかを考えた時、義父が口にしてきた草の根運動を思い出し自分で出来ること、まずは健康である努力をし大きな医療費は使わない。現在私の医療費負担は一割なので市から支払われる金額が算定できますので今のところはまずまずと思っております。次はゴミの減量です。資源ゴミは分別し、紙類も資源に分別したら燃えるゴミが半分になりましたが季節的にこれからの課題です。こんなことしか出来ないのですが、一本の草から皆の力で緑の草原も出来るたえがあります。幸いこの間の菊地市長さんの御説明と議会だより69号の決算報告で二十年度の財政は黒字で健全と判断されておりました。市長さん始め関係各位の御努力の結果でもあると理解し今後の問題も多く気が抜けないと感じました。大手企業の誘致もさることながら、地元中小企業をもっと活性化し税収や雇用につなげてはいかがでしょうか？

エイプリルフールは

どうしてできたか

大代東区 佐藤 松雄
日本では「四月バカ」とも呼ばれるエ

イプリルフル。どうして四月一日がウソをついてもいい日になったかという
と、昔、ヨーロッパの新年は三月二十五日でした。三月二十五日から四月一日までが春祭り、最後の日にはプレゼントの交換などが行われたりしていたのです。しかし、一五六四年のフランスのシヤルル九世がユリウス暦を採用して一月一日を新年としました。人々はこれに反対し、でたらめのプレゼントやいたずらをして、旧暦をなつかしがったのが起源とされています。これはほんとうのはなしですよ。世間を騒がすようではなくユーモアのあるエイプリルフルにしたいものです。

大代の歩み (二十五)

大代南区 渡邊 巖

一方、藩の財政は文化四(一八〇四)年の蝦夷地警備、同一一年の日光東照宮修復、文政六(一八二二)年の関東諸河川普請などで多額の支出を強いられ、相変わらず窮乏していた。

この中で天保四(一八三三)年の冷害と天保七(一八三六)三七年の続けざまの冷害・長雨・暴風雨による天保の大飢饉に見舞われたのである。

(三)天保の大飢饉

天保四年は夏の最中でも十月頃の寒さで、細雨が降り続いた冷害であった。但し、この年には藩も備荒貯蓄の米を払い下げたり、手当金を支給したりで貧農や

家中を救助するなど、犠牲の拡大を防いだ。

しかし、藩のこの施策が却って仇となり、世の人々は天明の凶災よりは楽なものだと油断して、米・粃・雑穀類を食用のほか他人にも施し、或いは高値に釣られて売却する等、一般の人々は手持ちの量をすつかり出し尽くして終わった所へ天保七(一八三六)年の災厄である。

この年は冷害だけでなく、長雨の上で大暴風雨の被害が大きかった。この時の多賀城の有様を「天保日記抜書」は天保七年一〇月一七日の項に次のように記している。

『雨が強かったのは僅か四時間ほどだった。しかし、翌朝から大水が出て南宮・山王・市川・浮島の辺では、刈った稲が既に三万束余り、更に七北田・松森・岩切方面からも流された稲が七北田川に堆積した。』

福田町には稲を流された人々が数百人集まって大混雑となり、そのため他の地から原の町や浜方面に行く人々が通れなくなつて途中から引き返したという。八幡や笠神など砂押川の辺りも洪水で海のようになり三日間ほどは水か退かなかつたそうだ(現代語訳) 続く

ふれあい短歌 (入学特集)

大代西区 藤田 遊子

育てたる 母の喜び 如何ならむ
今日待ち詫びし 入学式なり

国政の 子供手当は 温かく
入学できぬ子 無からしめたり
終戦後 高校入学 全員に
教育レベル 世界第一
米百俵 頒けず 入学させけり
農民の子も 入学させけり
逸材を 入学させし 松陰の
願ひは近代 日本の夜明け

ふれあい俳句

大代西区 松浦 富男

啓塾や 生命が動く 水輪かな
まんさくは まつさくは なよこがねいろ
小六に 勝てぬ将棋の ひなたぼこ
雛の間に 嫁かぬ娘二人 高笑い
縛られた 地蔵の 哀愁 涅槃西風

笠神西区 本郷 勝子

春の風 まわる地蔵の かざぐるま
離れ島 見渡す限り 菜花咲く
春の海 飛行機雲と 航跡と
なごり雪に 身震いしてる 福寿草
山芽咲く ピンクの ベール かけたよな

八 幡 森 季子

蠟梅の 頬寄せて知る 香りかな
遭難の ニュース 亦もや 春隣
お祓いの 神官の腕 春寒し
トタン打つ 雪解凍の 鳴りやまず
雪解路 托鉢の 声 遠ざかる